

# 放課後等デイサービス自己評価表

ディグ・スマイル・前橋西教室

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6	1	利用定員と指導訓練等のスペースの関係は適切な広さを保っています。個別グループ化する等の工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	7		利用人数に応じて、人員配置を適切に行っています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	7		バリアフリー化されており、玄関にスロープがあります。また室内に段差も無く、動線を遮るものもありません。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	7		朝にミーティングを行い、前日の業務を振り返っています。振り返りを行うことで、業務改善に繋がっています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		保護者向け評価表を活用して意向を知り、業務改善に努めています。今後も、職員間で話し合い、より良い支援の為に尽力します。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7		結果を保護者様にお配りし、HPでも公表をしています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	4	令和5年2月より第三者委員会を設置しました。今後、外部評価の実施を検討していきます。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		職員の資質の向上のために、内部、外部の研修の機会を確保しています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	7		その都度、適切なアセスメントを行い、児童や保護者のニーズや課題にあった放課後等デイサービス計画を作成しています。放課後等デイサービス計画の書式を改善しました。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7		児童の社会性を、自己評価などのアセスメントツールを使用し把握しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		児童が楽しく意義のある活動ができるよう、専門的知識を持つ職員がチームを組んで活動プログラムの立案をしています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		活動プログラムの内容のみならずご利用児童に合わせて活動を変える等、偏らない様工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7		毎日、利用実態に合った行動計画を立て、それに沿った支援をしています。休みの日は地域交流を含めて外出し、普段とは違った活動を行う等など児童が楽しめる工夫をしています。
	14	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	7		ガイドラインの総則に沿って、複数の活動を組み合わせ合わせて実施しています。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	7		個々の児童の状況に応じて、個別活動と集団活動のバランスを考え放課後等デイサービス計画を作成しています。
	16	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7		職員間で打ち合わせを行い、役割を決め、支援内容を熟知し、支援をしています。
17	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7		支援終了後に情報を共有し、翌日の朝会で、上手くいった点、反省等の詳細を振り返り、次に活かす支援をしています。	
18	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7		児童の記録・業務の記録を行い、支援の改善に繋げる努力をしています。	
19	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	7		保護者様の要望を反映するため、定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画を見直しています。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7		サービス担当者会議は児童の状況に合わせて最も相応しい者が参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	7		必要な時に、随時学校との情報共有、連絡調整をしています。学校送迎の際に学校での様子を共有しています。
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	7		児童の受け入れ時に、相談支援事業所と保護者様と連携を取り、情報共有をし、相互理解を高め、これからの支援に繋がっています。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	7		必要時に、相談支援事業所と保護者様と連携を取り、児童の支援内容等の情報を引き継ぎ・提供できるような体制を整えます。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	2	5	情報提供をいただいています。専門機関と連携し、研修や助言を受けられるように調整をします。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	5	社会参加活動として近隣の児童館や公園、各施設に行き、障害のない子どもたちと活動する機会があります。今後も交流する機会を維持します。

# 放課後等デイサービス自己評価表

ディグ・スマイル・前橋西教室

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
関係機関や保護者との連携	26	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	1	6	今後は、協議会に積極的に参加し、地域に根差した運営の体制を整えます。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		日々の送迎時に保護者様へ児童の様子などを伝え、家庭との連携を図っています。より情報共有を丁寧に行う為、職員を指導します。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	5	2	お子様の特性を踏まえ、ご希望されるご家庭にはご家庭での支援の仕方などを話し合い助言をしています。放課後等デイサービスの場で効果的だった働きかけや工夫を共有させていただいています。
保護者への説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		見学時に説明し、本契約時にさらに詳しく支援内容や利用負担額等を丁寧に説明しています。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7		保護者様から子育ての悩みの相談があった際には親身になって助言や支援をしています。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	6	保護者会の開催を検討しています。どのような形態で行うか検討中です。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		苦情があった場合には、迅速かつ適切に対応できるように尽力しています。
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7		新聞を作成し、活動概要や行事等を知らせ、情報発信を行っています。
	34	個人情報に十分注意しているか	7		個人情報の取り扱いは、最重要機密として、注意して取り扱っています。
	35	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7		児童や保護者に分かりやすいように、専門用語を避け、相手に伝わるように配慮しています。
36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5	2	感染症等に気を付けながら、夏休みには地域の方を招いて納涼祭を行う予定です。	
非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	7		各教室での閲覧が可能ですが、保護者様への共有が進んでいないため、進めていきます。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7		地震、火災、水害等の訓練を毎月行い、児童が安全に過ごせるように支援をしています。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		虐待防止マニュアルを作成し、施設内研修を行っています。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	7		身体拘束適正化委員会にて、事例を検討しています。対象のご家庭には保護者様に説明をしています。放課後等デイサービス計画に記載することになっています。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7		食物アレルギーの危険性を職員全員が理解し、医師の指示書や保護者からの情報に基づいて配慮しています。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	7		ヒヤリハットや事故は職員間で共有し、報告書を作成し、支援に活かしています。